

令和 6 年
伊豆市議会 6 月定例会

一 般 質 問

令和 6 年 6 月

令和6年伊豆市議会6月定例会一般質問者と質問事項

6月17日（月）午前9時30分～

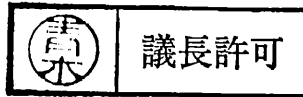
発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
1	8. 星谷 和馬	【伊豆クラブ代表質問】市長の所信表明に対して	市 長	3
2	14. 三田 忠男	【IZU未来代表質問①】所信表明を受けて	市 長	5
	6. 下山 祥二	【IZU未来代表質問②】所信表明を受けて		7
3	11. 波多野 靖明	1 伊豆市20周年記念エンブレムと市章について	市 長	9
		2 アマギフトの課題について		10
		3 原付ご当地ナンバー作成について		
		4 デジタルサイネージの災害時活用		
4	2. 浅田 藤二	1 狩猟文化について	市 長	11
		2 特用林産物におけるモノレールの普及・活用について		12
		3 交通弱者への対応		13
5	12. 小長谷 順二	1 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために	市 長	14
		2 自治会DX		15

6月18日（火）午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
6	10. 間野 みどり	1 小児医療の現状とこれから	市 長	16
		2 これからの温泉地のにぎわいの心配点について		17
7	1. 小川 多美子	5期目に突入した市長の「福祉」への取り組みを問う	市 長	19
8	15. 永岡 康司	1 教員を取り巻く社会状況と教員の現状	教育長	20
		2 文教ガーデンシティ構想の残火	市 長 教育長	22
9	16. 杉山 誠	1 深刻化する孤独・孤立対策をいかに進めますか	市 長 教育長	24
		2 自治会に依頼する回覧に電子回覧板を普及しませんか	市 長	25
		3 平時から役立つ新発想の防災「フェーズフリー」の普及を進めませんか	市 長 教育長	
10	5. 黒須 淳美	1 水道事業の災害対策と描く将来像は	市 長	27
		2 伊豆市の教育について地域との連携	教育長	28

6月19日（水）午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
11	9. 鈴木 正人	1 伊豆市長選挙の総括と今後の市政運営	市 長 選管委員長 教育長	29
		2 生産性革命の現在の到達点を問う	市 長 教育長	30
		3 市民に信頼される公文書管理の推進	市 長	31



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6年 6月 3日

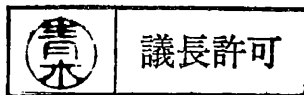
伊豆市議会議長 様

議席番号 8 議員名 星谷和馬

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	① 一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20 分・ 30 分) ② 質疑 ③ 討論 (反対・賛成) ④ <u>その他</u> (会派代表質問 伊豆クラブ)
発 言 の 要 旨	
件 名	内 容
市長の所信表明に 対して	1 移住希望者を最大限受け入れる人口減少対策 本年伊豆市誕生 20 年、この間人口はなんと 11,000 人も減少です。平成 21 年には「人口減少危機宣言」を發表しましたが、一向に成果なし。また国の社人研は、2045 年に 15,152 人と予測です。そして伊豆市はなんと消滅可能性自治体になると衝撃を与えた。一連の経緯のなかで様々な施策を講じているが、むしろ悪化している。持続可能な伊豆市の存続すら危うい状況になりつつあります。以下質問します。 ① 人口減少をしっかりと検証しましたか。抜本的に何が足りないのか説明願います。 ② 若者が少ない。U ターン・I ターンを促す方策は。「中小企業等奨学金返済支援補助金の拡充」、「若者の同窓会支援」をしませんか。 ③ 市内の空き家は何軒ですか。空き家バンク登録数は又実績は。 ④ 限界集落、消滅集落がいくつも発生します。良い知恵、方策は。 ⑤ 伊豆市立地適正化の誘導区域に 2 カ所 (修善寺温泉周辺、天城湯ヶ島支所周辺) が含まれましたが、説明願います。また他の地域は考えていますか。
	答 弁 を 求める者
	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	2 災害死者ゼロを目指す防災 市長の公約、賛同します。災害は必ず起こるを念頭に生活することです。以下質問します。 ① 毎年9月に防災訓練を実施していますが、各地区によって力の入れ方に違いがあります。どの様な指導、監督をしていますか。 ② 狩野川台風から66年経ち風化しています。市として何らかの企画、計画はありますか。 4 経済的活力維持のための産業振興 産業振興は最重要課題である。雇用の創出、税収確保そして人口減少対策でもあります。産業力の強化、企業誘致等に努め「基盤産業」の観光業に力点をおき、にぎわいのあるまちづくりを目指すことです。以下質問します。 ① 観光など交流人口、リピータを増やすにはどのような施策が必要ですか。また講じてきましたか。 ② 有名なホテル、旅館を誘致しませんか。 ③ 田、畑が荒廃する。美しい里山を保つにはどうしたらよいか。課題と方策は。 ④ 農業振興も大切です。支援、対策は。 5 行政DXと公共施設再編成の推進 今やデジタル活用を避けることは出来ません。デジタルを活用して企業、自治体も仕事の合理化、省力化を目指しています。以下質問します。 ① CIO補佐官を招き約2年間、この間の改善点、実績また費用対効果は。 ② 公共施設の集約・再編成は可能な限り前倒しで進めるとあります。天城会館、総合会館、虹の郷、萬城の滝キャンプ場は具体的にはどうしますか。	



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 6 月 3 日

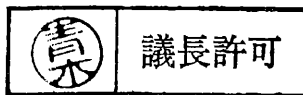
伊豆市議会議長 様

議席番号 14 議員名 三田 忠男

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	② 一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20分・30分) ②質疑 ③討論 (反対・賛成) ④ <u>その他</u> (会派代表質問 IZU 未来①)	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
所信表明を受けて	これまで以上に市民の皆さんや職員の声に耳を傾ける意識を大切にしたいとの前提で 1. 移住希望者を最大限受け入れる人口減少対策 2. 災害死者ゼロを目指す防災 3. 公教育における多様な選択肢の確保 4. 経済的活力維持のための産業振興 5. 行政 DX と公共施設再編成の推進の 5 点を 5 期目の所信表明として受けましたので、以下伊豆市議会初の会派代表質問を行います。 1 の移住希望者を最大限受け入れる人口減少対策について ① 菊地市政 16 年間の実績と課題についての認識 ② 具体的な今後の方策を提示してください。 ③ 住民の受入意識の共有化を図ることが重要と思いますが、この点の施策はありますか。 ④ 受け入れと共に、流出防止策も展開することが肝要と考慮しますが、如何に取り組めますか。 3 の公教育における多様な選択肢の確保について 部活動の地域移行の進捗と指導者を伊豆市職員として雇用し、伊豆市として子育て支援策の一環として取り組むつもりはありませんか。	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	4 の経済的活力維持のための産業振興について ① 新県知事が誕生しましたが、県行政との連携で、経済観光施策分野の新たな取り組みの考え方について伺います。 ② 伊豆市独自の財源確保としての、目的税の創設の検討は考えていませんか。 ③ 市内にビジネスホテルがありませんが、誘致活動や建築予定事業者を応援する施策の検討はありませんか。 5 の行政 DX と公共施設再編成の推進について伺います。 ① この分野は、市長の政治姿勢に負うところが大きいと考えますが、いかに実行していくか伺います。 ② 議会へ公明正大の情報提供や忌憚のない協議の場の呼びかけを行い、市民のための再編計画をつくりませんか。 ③ 従来からいわれている縦割り行政、前例主義、年功序列賃金・人事管理制度は、時代の要請に合わなくなっていると思いますが、行政事務の抜本的改革の具体策を伺います。	



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和6年6月2日

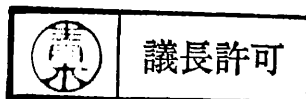
伊豆市議会議長 様

議席番号 6番 議員名 下山 祥二

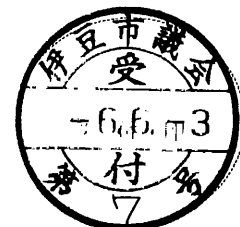
No. 1

発言の種別 (○で囲む)	① 一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20分・30分) ② 質疑 ③ 討論 (反対・賛成) ④ <u>その他</u> (会派代表質問 IZU 未来②)	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
所信表明を受けて	市政5期目に向けた市長の所信表明の冒頭で、これまで以上に市民の皆さんや職員の声に耳を傾ける意識を大切にしたいと、述べられています。当然、二元代表制の我々議員も市民の代弁者として常に市民の声に耳を傾け、市民の意見要望を公平公正に判断し、市政に反映すべく議員活動に邁進しなければならないと思っています。そこで会派長の代表質問を引き継ぎ、住民の立場に立って所信表明の2番、災害死者ゼロを目指す防災について質問します。 ① 高齢の方々や障害をお持ちの方々の避難計画の策定と避難方法については重要な課題であると認識しています。現状の避難計画策定の進捗状況と課題、さらに今後の具体的な取り組み内容について伺います。 ② 災害時に伊豆に滞在している観光客については広域避難の必要性を述べていますが、伊豆広域防災計画策定に向けてこれまでの経緯と今後の進め方について伺います。 ③ 災害復旧復興のために、建設業、水道業、設備業などの公共インフラ整備事業者の十分な維持が公益に叶うと述べています。地元事業者の維持の必要性については広く市民に分かりやすく説明すべきだと思いますが、その手段についてお聞きします。	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	④ 災害関連死の防止も重要な視点と思います。災害ボランティアの受け入れ態勢の事前計画の整備が必要不可欠と思いますが、現状と課題を伺います。 ⑤ その他、当市にとって防災、減災対策で危惧されることは何か、その課題と対策について伺います。	



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 6 月 3 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 11 議員名 波多野 靖明

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (①一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1.伊豆市 20 周年記念エンブレムと市章について	伊豆市が市制 20 周年を迎え、「市制 20 周年記念エンブレム」が作成され、令和 6 年 4 月 1 日より、様々な場面で目にするようになりました。このエンブレムには【^{かいきせき}回帰性が強い「つばめ」をモチーフに伊豆市を巣立った子どもたちが外に出て成長し、伊豆市に戻って子育てをするイメージを描き、また市の花の「わさび」を口にした親鳥が成長して戻ってきた子どもを迎え入れ、アルファベットの IZU でふるさと伊豆市を巣に見立てている】という、伊豆市への思いが詰まった記念エンブレムということで、非常に素晴らしいと思います。伊豆市の現在の市章は、一筆書きで特徴をとらえたシンプルでわかりやすく、その意味は【素晴らしい大自然をイメージし、シンボルカラーとして緑と青の中間色を用いており、緑は山を、青は土肥の海をそれぞれ象徴している】とあります。 今回の市制 20 周年エンブレムは、市の若手職員が中心となって手がけ、市内の児童・生徒の投票により決定したと、市ホームページに記載があり、これからの伊豆市を担っていく世代が、市の象徴を考えるきっかけは、郷土愛を育む一つとして大きな成果ではないかと考えます。そこで、この 20 周年を機に、市章も市民から公募し、今まで以上に、旧 4 町がひとつとなった伊豆市と改めて向き合い、新たな未来に向かって行くことを考えるきっかけにするのはいかがでしょうか。	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2.アマギフトの課題について	伊豆市ブランドとして、平成 29 年に伊豆市 DMO ではじまった「アマギフト」ですが、本年で 7 年目を迎えております。市内の特産品や地域資源などを活用した商品や地域特性があり、さらなる成長が期待できる商品を支援し、伊豆市内の地域資源のブランド向上を図り、事業者の収益向上及び市の魅力向上に寄与することを目的とした「アマギフト」ですが、今までの実績と、名称を含め、これからの課題についておたずねします。	市長
3.原付ご当地ナンバー作成について	令和 3 年 6 月定例会の「原付ナンバー」についての一般質問で、原付のご当地ナンバーの採用ができないか質問をさせていただき、市制 20 周年ではシンボリックなことを考えたいという答弁をいただきました。今回、市制 20 周年を迎え、何か取組みがございますか。また、20 周年に限らず、継続的な取組みはお考えでしょうか。	市長
4.デジタルサイネージの災害時活用	令和元年 9 月定例会において「デジタルサイネージの活用」について一般質問をさせていただきました。 デジタルサイネージは、一つの画面で多くの情報を伝えることができる便利なツールだと思います。耳の不自由な方が情報を得る手段としても非常に有効ですし、また多言語で表示することで海外の方などへの情報案内も届けやすいため、今では多くの場面で活用されています。 広報や観光案内だけでなく、災害時情報の発信にも活用できるような仕組み作りは進んでいるでしょうか。	市長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6年 6月 3日

伊豆市議会議長 様

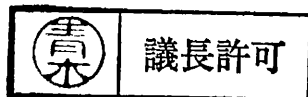
議席番号 2 議員名 浅 田 藤 二

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (<u>一括</u> ・ 分割) ※発言予定時間 (<u>20分</u> ・ 30分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1.狩猟文化について	天城山は幕府の直轄地であったことから、明治時代になって国有地になり、宮内省に移管され、御料地となり帝室林野管理局天城出張所、後の林野庁東京営林局天城営林署が平成18年に牧之郷に移転するまで湯ヶ島におかれ、国有林の管理をしていました。 少年時代を湯ヶ島で過ごした井上靖先生の小説「しろばんば」では、子どもたちがその門前で遊ぶ姿が描かれています。 植林以前は、そのほとんどがブナやモミ、ケヤキ等の森林でしたので木の実が豊富で鹿、猪にとっては極めて良好な棲家となり、狩猟が盛んに行われてきたと考えられます。 明治になり、東京に近いこともあり、天城御猟場は、日露戦争で功績のあった乃木陸軍大将や東郷海軍大将も度々足を運び天城山での、狩猟を楽しんだ足跡が中伊豆や天城に残されています。 当時は御猟場見廻役としての地元の有志に加え、猪や鹿を追い立てる地元の勢子100名余り、それに猟犬約80頭が加わり、大規模な猟が行われていたようです。 巨大な猪に襲われそうになった將軍を命がけで守った名犬「隼」は犬塚として筏場入にヤマ、フジ、リュウは与市坂、アカは船原に葬られています。後に名犬たちの美談は	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2.特用林産物におけるモノレールの普及・活用について	猟犬を介した地元のみなさんと将軍たちの人間模様を描いた小説にもなっています。 このように、伊豆地域において歴史を追うと狩猟は、まさに文化としてこの地域に根付いてきたものではないかと考えられ、狩猟をつうじて地域と国有林を管理する現在の森林管理署とが情報交換や相互の助け合いを活発に行ってきたことが伺えます。 質問します。 現在の国有林での狩猟の状況についてお伺いします。 ① 国有林での、狩猟にはどのような手続きが必要ですか。 ② 国有林内での狩猟は年にどのくらい計画されますか。 ③ 森林管理署と猟師のみなさんとの情報交換の場は、設けられていますか。 特用林産物とは、森林原野における生産物のうち、一般の木材を除くものをさします。伊豆市では「わさび」、「しいたけ」が代表的なものです。 「わさび」、「しいたけ」の生産場所は、道路が設置できない山の中にあり、そのほとんどが、急傾斜地を階段状に造成した場所にあります。 昔の記憶ですが、40kg以上の荷物を背負い命がけで崖沿いの道を歩いていた生産者の姿が思い出されます。今では、モノレールの普及により、資材や収穫物を運ぶことができ、劇的に農作業の負担軽減と効率性の向上につながっています。 そのモノレールも設置から30年以上が経過した施設も見受けられ、安全上施設の更新や補修が必要となっています。また、「わさび」、「しいたけ」産業には、近年、若者の新規就農が多く見受けられ、働きやすい環境づくりのためにもモノレール設置、更新は重要だと考えます。	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
3.交通弱者への対応	質問します。 ① モノレールの設置、更新に関する基準と今後の整備予定 ② 施設整備(モノレール)における新規就農者への制度について 山間部の集落では、少子高齢化が進み、ここ数年で1人暮らしの老人宅や移住を決め空家となった家が目立つようになってきました。 移動手段がなく、どうしても時は、遠方に住む息子さんに会社を休んでもらい病院に送ってもらうなどのお話を聞く機会も増えてきました。 増え続ける移動手段のない交通弱者への取り組み、今後の展開をお伺いします。	市 長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 5 月 29 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 12 議員名 小長谷順二

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()
発 言 の 要 旨	
件 名	内 容
1. 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために	能登半島地震による石川県での犠牲者は 7 割を超える方が 65 歳以上の高齢者であることが判明し、ほとんどは家屋倒壊で亡くなったと報道されており家屋倒壊などの対策が急務です。 災害死者数ゼロを目指す、伊豆市の高齢者保健福祉計画第 9 期介護保険事業計画の高齢者のいる世帯数の推移をみても全国、静岡県、近隣市町の高齢者のいる世帯は、本市が最も高い状況です。 一人暮らしや高齢者世帯の方々の暮らしを守り、住み慣れた地域で安全・安心、そして生きいきと暮らすために行政が行う事と、地域でなければできない事を明確にし、その事をしっかりと周知しながら実施していくことが必要であると考えます。高齢者世帯の方々の安心・安全な暮らしを守るために、次の質問をいたします。 ① 一人暮らしや高齢者のみの世帯数について ② 65 歳以上の高齢者世帯の、家具転倒防止支援、住宅用火災警報器取付け支援について ③ 住宅改修 (耐震) の補助事業について ④ 一人暮らしや高齢者のみの世帯の見守りにについて ⑤ 後期高齢者健康診査の状況について ⑥ 伊豆市民ささえ合い活動の現状と運営を続けるうえでの課題等について
	答 弁 を 求める者
	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2.自治会 DX	近年、少子高齢化の急速な進行を背景として地域課題が複雑化するなか、高齢者や子どもの見守り、防犯・防災といった観点からも、自治会の重要性はますます高まっております。 一方、地域の支え合いの基盤となる自治会は、住民の加入率の低下や役員のなり手不足などの課題に直面しているところが多く、高齢化や近所付き合いの希薄化に加え、「会費は支払うが役員は勘弁してほしい」、「回覧板の受渡しが手間」などといった自治会活動の負担の重さが背景にもあります。 前回の一般質問では、自治会等の後継者不足や地域のコミュニケーションがままならない状況をどのように考え、今後支援をしていくのかについて伺いました。今回はDXを活用した自治会活動の負担軽減についての質問です。 デジタル化が進む現代では、自治会活動を活性化するためのデジタルの活用方法は、いくつか存在すると思います。しかしデジタル化を進める場合であっても、デジタル化で課題が全て解決する訳ではなく、全てのリアルな活動がデジタルに置き換えられる訳でもないため、デジタルとリアルな活動とのバランスをどう取るか、これらを十分検証する必要があると考えています。 自治会のデジタル化に対する見解と、回覧板をデジタル媒体に移行する電子回覧板について伺います。	市 長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6年 5月28日

伊豆市議会議長 様

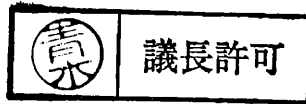
議席番号 10 議員名 間野 みどり

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (<u>一括</u> ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ <u>30 分</u>) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 小児医療の現状 とこれから	長年、伊豆市の小児医療に携わってくれた、中島病院の中島恵子先生が、去年の9月、皆さんに惜しまれながらも引退なされ、早半年以上が経ちました。改めて、若いお母さんたちの声を聞きますと、“恵子先生がどんなに、皆さんのために、伊豆市のためにつくしてくださったか”と感じています。 市の方も、その穴を埋めるごとく、小児医療体制を整えてくれ、伊豆赤十字病院では短い時間ですが、夜間診療や早朝診療も始めてくださりました。その他に、お母さんたちの間では、夜間や時間外などに、“#8000” (こども医療でんわ相談) の利用も、浸透しつつあるように感じています。また、先日、子育て支援課ではアプリの“いつでもドクター”のお知らせをホームページで周知してくれていました。 しかし、伊豆市に住む医療関係者の先生方もお年をとられたり、都合で診療時間を短縮したり、医療体制にも変化があると聞いています。 今まで恵子先生や伊豆赤十字病院のお陰で、伊豆市は本当に恵まれた環境だったと実感している方も多いと思います。 少しずつ変わってきた、今この現状をしっかりと受け止め、これから望むことだけを言うのではなく、私たちが今	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. これからの温泉地のにぎわいの心配点について	の現状から、利用者として使い方を工夫したり、努力したりして、今後の医療体制に、向き合っていく必要があるのではないかと考えています。 そこで質問します。 ① 今の伊豆市の医療体制はどのようになっていますか。 ② 市としては今後どのような方向性を考えていますか。 ③ 去年から今に至って、問題点など市民の声はありましたか。 ④ 医療体制が厳しくなる中、それぞれの病院間の医療連携の体制や方法など、どのようになっていますか。 ⑤ AIやタブレットの発展で、これらとのコラボや使用を考えていませんか。 ⑥ 市民や私たちは、どのような工夫をしていったら良いと考えますか。 今年に入り、コロナウイルス感染症も収まりはじめ、私の住む修禅寺周辺も、インバウンドでとても賑わっています。 コロナ禍前の一時期とは違い、海外からの観光客のマナーなどは少しずつ改善されつつあると思います（しかし、連休中のテレビ放送では、マナー違反が著しい報道もありました）。 連休中は、笑いながら歩いている外国の方の姿が、街中にあふれ、ほほえましく見えました。 今後は、もっともっと観光地を人々が訪れ、賑わうのではないかと予感しています。 その中で、気にかかる点があります。“もしこの時、地震が起こったらどうなるのだろう” “このお客さんたちは誰がどのようにするのだろう” と思い、心配がよぎりました。修善寺だけでなく、湯ヶ島・中伊豆・土肥も同じ心配があります。	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	また、観光客だけでなく、その時、その周辺の市民などはどのような行動をしたら良いのかも、気になります。 そこで質問をします。 ① 今、市の捉えている観光客に対する防災は、どのように考えていますか。マニュアルなどがありますか。 ② その時、市民はどのような行動をしたら良いか考えていますか。 ③ 観光客でことばの面での配慮が必要な方へはどのように対処しますか。 ④ 避難所への誘導などは、どのように考えていますか。 ⑤ 今後の課題は何ですか。	



発言通告書



下記のとおり発言したいので通告します。

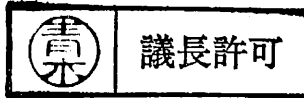
令和 6 年 6 月 3 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 1 議員名 小川 多美子

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	① <u>一般質問</u> (<u>一括</u> ・ 分割) ※発言予定時間 (<u>20分</u> ・ 30分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発言の要旨		答弁を 求める者
件名	内容	
5期目に突入した市長の「福祉」への取り組みを問う	今定例会初日、市長の5期目にかかる所信表明演説を拝聴させていただきましたが、その所信表明の中には、福祉の「ふ」の字も入っておらず、日頃「手話講座」、「手話ボランティア」を通じて、「ろう」の方々と接している私は、とても悲しい気持ちになりました。 福祉といっても色々あります。例えば目が見えない、耳が聞えない、心身に障害がある、病気や怪我による身体的な損傷など様々ですが、それら障害を持った人たちに対する「障害者福祉」。また、これから確実に増えるであろう「高齢者福祉」に対する様々な取り組み。例えば、介護施設に入所できるかどうか、また在宅医療に関わる問題等多くの問題が山積しているのではないのでしょうか。 重症心身障害児や医療的ケア児の問題もあります。これら問題は子どもだけではなく、保護者にも関わる重大なことであります。他にも「ヤングケアラー」の問題など一口に福祉に対する問題といっても、多くの事柄があり障害を持った人たちがばかりでなく、健常者であっても健康で長生きするためには、福祉のお世話にならざるを得ません。 市長は、決して「福祉」を置き去りにしているわけではないと信じたいと思いますが、<u>「なぜ所信表明で触れられなかったのか」その真意を市長に伺います。</u>	市長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 6 月 3 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 15 議員名 永岡 康司

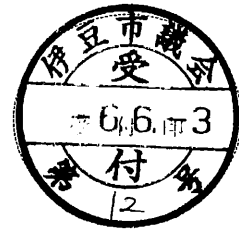
No. 1

発言の種別 (○で囲む)	① <u>一般質問</u> (一括 ・ <u>分割</u>) ※発言予定時間 (20 分 ・ <u>30 分</u>) ② ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1.教員を取り巻く 社会状況と教員の 現状	近年、我が国では、「知識基盤社会」の到来や、グローバル化、情報化、少子・高齢化、社会全体の高学歴化など、社会構造が大きく変化しており、変化のスピードも早くなっている。本来、学校や教員には社会の変化に適切に対応して教育活動を行っていくことが求められているが、現状は、こうした変化がこれまでになく大規模、かつ急激に進んでいるため、教員が迅速かつ適切に対応することが難しくなっている。 また、都市化や核家族化の進展等を背景として、家庭や地域社会の教育力が低下し、これに伴い、学校や教員に対する期待が高まっている。 本来、子どもたちの教育は、学校、家庭、地域社会の三者が互いに連携し、適切に役割を分担しながら行われるべきものである。その意味で、家庭や地域の教育力の向上を図るとともに、保護者や地域住民の学校運営への参画を進め教育活動への理解と協力を求めるなど、社会全体が学校や子供の教育を支える環境づくりを進めることは重要な課題であるが、現状においては、例えば、子どもの基本的な生活習慣の育成等の面で、学校や教員に過度の期待が寄せられている。 さらに、こうした社会状況や子どもたちの変化等を背景と	教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	し、学校教育が抱える課題も、一層複雑・多様化して、児童・生徒の学ぶ意欲や学力・気力・体力が低下傾向あるとともに、様々な実体験の減少等に伴い、社会性やコミュニケーション能力等が不足していること。 いじめや不登校等の問題が依然として深刻な状況にあるほか、治安の悪化等に伴い、子どもの生命安全が脅かされている事件がしばしば発生している。 教員に限らず、いかなる専門職業において、新たな知識や技術を保管していくことは重要な課題であるが、とりわけ教員は、常に研究と修養に努め、専門性の向上を図っていくことが期待される。 また、社会の変化への対応や保護者からの期待の高まりを背景として、教員の中には多くの業務を抱え込み、本来の教育活動に専念できない様な状況が一部に生じてきている。 教科指導や生徒指導など、本来の職務についても多忙感を抱く教員が多く、その結果、教員間で支えあい、協働する力（同僚性）が希薄になっているという指摘もあります。 さらに、現在の教員の年齢構成を見ると、40代から50代前半の層が多くなっており、今後、この世代が退職期を迎えることから、量及び質の両面から、優れた教員を構成・確保することが極めて重要な課題となることが想像される。 そこで、教育長に伺います。 ① 伊豆市における教員不足の現状は ② 教員不足の原因をどの様に考えますか？ ③ 教員不足は学校の教育活動にどの様に影響を及ぼすと考えますか？ ④ 今後起こると思われる教員不足の解消に向けての取り組みについて	

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2.文教ガーデンシティ構想の残火	⑤ 教員のストレスをどの様に考えるか、また、その対応は？ 文教ガーデンシティ構想の残火がいまだに燻っているようです。 当初案では日向地区の 12 ヘクタールの中に新中学校、住宅地、子ども園、公園を建設しようとしたものですが、住宅地の予定地は病院候補地との並行検討地として変更になりました。その後、平成 31 年 1 月 JA 厚生連より市議会に対し中伊豆温泉病院新築移転に関する新たな候補地として下白岩地区とする報告がありました。 同年 6 月 JA 厚生連経営委員会にて候補地として用地取得が承認され令和 2 年 11 月登記移転が完了し、令和 4 年 1 月建物工事着工、令和 5 年 12 月新築移転完了し現在に至っています。 その後、病院だけでなく、当初案の住宅地の計画は立ち消え、子ども園も場所が変更となり、新中学校も南北の教科教室型の建物から東西の普通教室に変更になりました。 このように、各施設の配置は当初案から二転三転し、当初の計画とは全く異なった形状となりました。 平成 29 年 5 月 16 日の臨時議会で否決された計画は、果たして正しかったのか、疑問が残ります。市長は臨時会で否決された文教ガーデンシティ構想の件について機会を捉えてはそのやりきれない心に残っている思いを包み隠さず述べておられます。 燻り続けている火種は絶やさなくてはなりません。いつまでも過去に囚われず、常に未来に目を向けた行政のかじ取りをするのが首長のあるべき姿だと思います。 その上で火種を払拭するためにもあえて以下の質問を致します。	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	① 未だに、当初計画案は唯一無二の最善の策であったとお思いですか。 ② 新中学校の構想には教科教室方式がありました、現在もこの方式は正しかったとお考えですか。 ③ 住宅地が病院移転候補地となったとき、病院と駐車場の距離が遠いことを配慮しなかったのは何故ですか。 ④ 平成 29 年 5 月 16 日の臨時会で、文教ガーデンシティ構想にかかる補正予算が否決となりました。市長はその後、取材を受けたマスコミに対し自からの不徳と洞察力不足があったことを述べています。この二点についてもう少し詳細に説明願います。	



発 言 通 告 書

下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 6 月 3 日

伊豆市議会議長 様

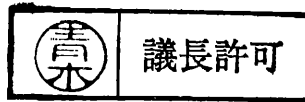
議席番号 16 議員名 杉 山 誠

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 深刻化する孤独・孤立対策をいかに進めますか	国の推計では、65 歳以上の単身高齢世帯は 2020 年の 738 万世帯から 2050 年には 1.5 倍の 1084 万世帯に増え、全世帯の 2 割を占めるようになるとされている。また、人につながりたくてもつながれずに追い込まれる「社会的孤立」も増えている。孤独・孤立をめぐる問題は、独居世帯の増加や近隣・家族関係の希薄化、病気などが背景にあり、近年はコロナ禍の影響によって深刻化、顕在化している。 本年 4 月 1 日施行された「孤独・孤立対策推進法」では、「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、「相互に支え合い、人と人のつながりが生まれる社会」を目指す。との趣旨のもと、地方公共団体の努力義務も記されている。 以下、当市の取り組みについて伺う。 ① 当市における単身高齢者の推移、ひきこもり・不登校の実態はいかがか。 ② 相談体制や支援の仕組みはどのようなになっているか。また、孤独・孤立対策地域協議会設置についてはいかがか。 ③ 今、どのような相談が多く寄せられ、対応はどのように行われているか。 ④ 身寄りのない高齢者の人生の最期に備える「終活」に関する相談体制はいかに。 ⑤ 単身高齢者等の住居確保に対する相談支援体制はいかに。 ⑥ 不登校への対応はどのように行われているか。	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2.自治会に依頼する 回覧に電子回覧板を 普及しませんか	地域住民の支え合いや防災対応に欠かせない自治会・町内会だが、高齢化や役員の担い手不足でその機能が低下している地域もある。持続可能な地域づくりのため、役員の負担軽減とコミュニティ醸成の工夫が求められる。 現状の回覧板は、配布者が直接訪問して隣人と触れ合う機会が得られるなどのメリットがあるが、配布に負担を感じるとの声も聞かれる。また、回覧が回るのに日数を要し、必要な情報が間に合わない場合もある。 このため、回覧をデジタル化できれば配布の手間を省くとともに情報の即時性も得られる。また、回覧物の情報を再度確認することができ、さらに既読機能を活用すれば高齢者の見守りも可能になる。 当然デジタルが苦手な人もいる中ですべてデジタル化することは無理があると思うが、出来るところから普及させてはいかかがか。	市長
3.平時から役立つ新 発想の防災「フェー ズフリー」の普及を 進めませんか	世界有数の災害大国といわれる日本において、防災への備えは欠かせないものであり、大きな災害が起こるたびにその必要性が叫ばれてきた。しかし、いつ起こるかわからない災害に備えてコストを費やして準備することは大きな負担であり、なかなか備えが進まない現状がある。 このようなことから、平時と非常時の局面（フェーズ）の垣根を取り払うように考えられたのが「フェーズフリー」と呼ばれる発想で「備えない防災」とも呼ばれている。 当市では、クリーンセンターいずや整備が進められている津波避難複合施設、さらに防災機能を備えた（仮称）日向公園もそれに該当すると思うが、徳島県鳴門市では、巨大地震に備え全市をあげてフェーズフリーに取り組んでいる。 「第7次総合計画マスタープラン」で「フェーズフリーの思想に基づいた街づくり」を掲げ、例えば海に面した場所にある道の駅「くるくるなると」では、緩やかなスロープの坂を	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	普段は親子連れなどがそりで遊ぶ場に開放し、地震発生時には高齢者や車いすの人が避難しやすいようにしたり、売り場には多量の食品を並べて販売したり、災害時には 1000 人の避難者 3 日分の備蓄食料となるようにするなどして、消費期限切れの食糧を入れ替える費用を無くしている。他にも、市内の登山情報を載せた地図をハザードマップとして使えるようにもしている。 また学校でも、フェーズフリーを取り入れた教育が進められ、アイデア発表会では寝ていて災害にあった場合に助けを呼ぶ笛が付いた置時計とか、ペットボトルを利用して作った照明など、「なるほど」と思わせるアイデアがどんどん出されているとのこと。 さらに同市では、「いつもともしものがつながる防災」と銘打ってフェーズフリーフェスティバルを開催し、炊き出し訓練での自衛隊カレーの試食や、防災に役立つアウトドア用品の展示・販売、キッチンカーの出店など、楽しみながら防災意識を高める取り組みも行っている。 このようにまちづくり全体の基本理念にフェーズフリーを取り入れていくことで、日常から防災の備えを強化していくことができると思うがいかがか。	



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 5 月 30 日

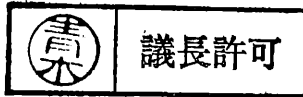
伊豆市議会議長 様

議席番号 5 議員名 黒須 淳美

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()
発 言 の 要 旨	
件 名	内 容
1.水道事業の災害 対策と描く将来像 は	新しい年が明けたばかりの1月1日16時10分、能登半島で起きた大地震のニュースが駆け巡り、自然災害の恐ろしさを改めて思い知らされました。 伊豆半島も例外ではなく、本年度の伊豆市当初予算の重点事業は、南海トラフ地震に備え「死者ゼロを目指した取り組み」として、防災拠点の整備や避難対策の推進のために8億9,032万円の事業費が計上されたところです。 市制20周年を迎え、新市建設計画に基づくまちづくりの総仕上げの年でもある今年度は、大型事業を着実に完了させると共に、今、まさにもう一つのまちづくりとして菊地市長が掲げる「市民(いのち)を守るまちづくり」を推進していくことが急務と考えられます。 能登半島地震では、インフラの中でも特に復旧が遅れたのが水道だったと報道されていました。その一つの背景として水道管の耐震化が進んでいなかったことが挙げられています。 伊豆市の現状はどうでしょうか。 合併によるまちづくりの大きな山を越えた今、今年度の重点事業と位置づけられた、災害から市民のいのちを守るためには、水の安定した供給が一つの重要な柱となるのではないのでしょうか。 そこで、次のことについて伺います。
	答 弁 を 求める者
	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2.伊豆市の教育について地域との連携	① 市内水道施設・水道管の現状、特に老朽化の状況は ② 漏水事故の現状と対策について ③ 災害対策、主に水道管の耐震化について ④ 「伊豆市水道事業危機管理マニュアル」とは ⑤ 水道料金値上げの検討は 先月5月24日、議員全員で新中学校の工事現場を見学する機会がありました。 中に入ってみるとそれぞれの教室も姿を現し、また階段で2階へも上がることができ、窓からは遠くに美しい新緑の山々の景色も見ることができました。 来年4月には、無事完成したこの建物に子どもたちの声が響き、いよいよ命が吹き込まれることでしょう。 新しい中学校がその第一歩を踏み出します。 これからの歩みは、学校と地域の連携が進むことで、開かれた学校という環境の中、子どもたちの成長が更に促されるものと思います。 教育現場では、文科省の掲げる「社会に開かれた教育課程」で、子どもたちが社会のつながりの中で学ぶことの大切さを訴え、また変化が激しく予測不可能になっている中「探究学習」の重要性が叫ばれています。 そこで、次のことについて伺います。 ① 現状の、地域との連携や探究学習についてどのように評価していますか。 ② 伊豆市の特性を生かした取り組みとしてどのようなことが考えられるでしょうか。 ③ 今後、地域との連携として強化していきたいと考える分野は。 ④ 地域の多様な資源を学校教育に取り入れるための「市民と共に考える場」の実現は。	教育長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 6 月 3 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 9 議員名 鈴木 正 人

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(一括・分割) ※発言予定時間(20分 30分) ②質疑 ③討論(反対・賛成) ④その他()
発 言 の 要 旨	
件 名	内 容
1. 伊豆市長選挙の 総括と今後の市政 運営	本年4月21日に執行された伊豆市長選挙において、 菊地豊市長は、得票数「8,425票」、得票率は「88.47%」と まさに圧勝で見事「5期目」の当選を果たされました。 しかし選挙結果を振り返れば、当日有権者数「24,591人」 に対する投票者総数は「10,482人」で、投票率は過去5回 の市長選挙の投票率のいずれも下回り、<u>過去最低の</u> <u>「42.63%」</u>となりました。 また、伊豆市選挙管理委員会作成の「年代別投票状況表」 によると、60代「53.08%」、70代「52.13%」、50代「44.36%」 と全体投票率を上回る一方で、40代「35.59%」、30代 「30.48%」、20代「23.29%」、10代「20.11%」と全体投票 率を下回り、特に30代以下の「若年層」の低投票率の改善 には依然として至っていないことが明らかになりました。 その一方で、期日前投票者数に関しては「4,761人」と 全投票者数に占める割合は「45.42%」で、過去5回の市長 選挙では最高の割合となっています。 これらの選挙結果を受けて、以下伺います。 ① 選挙管理委員会は、今回の市長選挙の結果をどのよう に分析し、また今後の選挙啓発活動にどのように繋げて いかれるのか伺います。
	答 弁 を 求める者
	市 長 選挙管理委員長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 生産性革命の現在の到達点を問う	② 若年層の低投票率改善のため、伊豆市の児童・生徒への「主権者教育」の課題をどのように捉えているのか教育長に伺います。 ③ 市長は、今定例会の「所信表明演説」の冒頭において、「4 月の市長選挙で市民の皆さんから信任をいただき・・・」と述べられましたが、今回の市長選挙の「白票」を含む無効投票数は「389 票」で、投票総数に占める割合は「3.71%」と過去 5 回の市長選挙の中で最も高い割合となっています。さらに過去最低の投票率であったことも踏まえると、市民の大半が諸手を挙げて信任をされたかについては、少々疑問が残ります。 多選批判も含め、市民の「5 期目」に対する視線は厳しいことも考えられます。改めて、市民との向き合い方や、今後の市政運営について市長に伺います。 市長は、令和 4 年度、令和 5 年度と「2 年続けて」施政方針演説の中で、「生産性革命」を取り上げ、私もその都度、その真意を一般質問で質してきました。 市長が目指す「生産性革命」には、6 つの分野（移住・定住、観光振興、福祉、教育、危機管理、行財政改革）における政策が示されていますが、現在の到達点は如何か以下伺います。 ① 「生産性革命」に係る「6 つの分野における政策」の 2 カ年の成果は如何か伺います。また、それぞれの課題、今後の方針について併せて伺います。 ② そもそもですが、伊豆市における生産性革命は、令和 4 年度で顕著に成果が現れたから、5 年度も継続しようとしたのか、或いはその逆で全く成果が見えなかったから継続となったのか改めて伺います。	市 長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
3. 市民に信頼される公文書管理の推進	③ 特に、行財政改革について、職員の反応は如何だったか、その結果として職員の意識改革に繋がったのか、また、その上で、目に見える成果が現れたのであれば数字等でお示し願います。 平成 23 年に施行された「公文書管理法」は、公文書を「健全な民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源」などと位置付け、国の行政機関の文書の作成から廃棄までの文書管理が位置付けられています。その制定の背景として、既に情報公開法は制定されていたものの、公文書管理法は制定されていなかったため、情報公開請求において文書不存在を理由とする不開示処分が多発し、文書保存期間満了前の誤廃棄や、文書の未作成、また年金記録問題で明るみとなった文書の不適切管理などの杜撰な公文書管理が問題視されていたことが挙げられます。 また、同法第 34 条において、地方自治体の文書管理に関して同法の趣旨に則って、施策の制定・実施を努力義務として課しています。 このことに対応するのが、伊豆市においては「伊豆市文書管理規程」ではありますが、杉山武司議員が、過去 3 回に渡り一般質問で指摘されているとおり、行政内部の規程であり、この法律の趣旨に則り、行政の透明性と住民への説明責任を果たせるものなのか大いに疑問が残ります。 令和 6 年 3 月 28 日、「静岡県公文書等の管理に関する条例」が公布され、令和 7 年 4 月 1 日から施行されます。 その第 1 条には目的として、「この条例は、公文書等が、県民共有の財産であり、公文書等の管理に関する基本的事項を定めること等により、県の諸活動を現在及び将来の県民に説明する責務が全うされるようにすることを目的とする。」と謳われ、さらに第 5 条では公文書の作成として、	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	「<u>実施機関の職員は、第1条に規定する目的の達成に資するため、当該実施機関における経緯も含めた意思決定に至る過程並びに当該実施機関の事務及び事業の実績を合理的に跡付け、又は検証することができるよう、規則で定める事項について、文書を作成しなければならない。</u>」と謳っています。 前述したとおり、公文書管理については、条例制定の提案も含めて、杉山武司議員が一般質問で取上げられています。そこで以下伺います。 ① 現行の「伊豆市文書管理規程」の課題の洗い出しの状況について伺います。また、その結果、どのような課題があるのか伺います。 ② 昨年9月定例会の「議案第68号 財産の減額譲渡について」の審査のなかで、「意思決定に係る会議録」が存在しない、つまりそうした文書が作成されていないことが露呈しました。市民や行政も後々検証が可能となるよう、条例の制定が必須であると考えますが、その見解を市長に伺います。	